

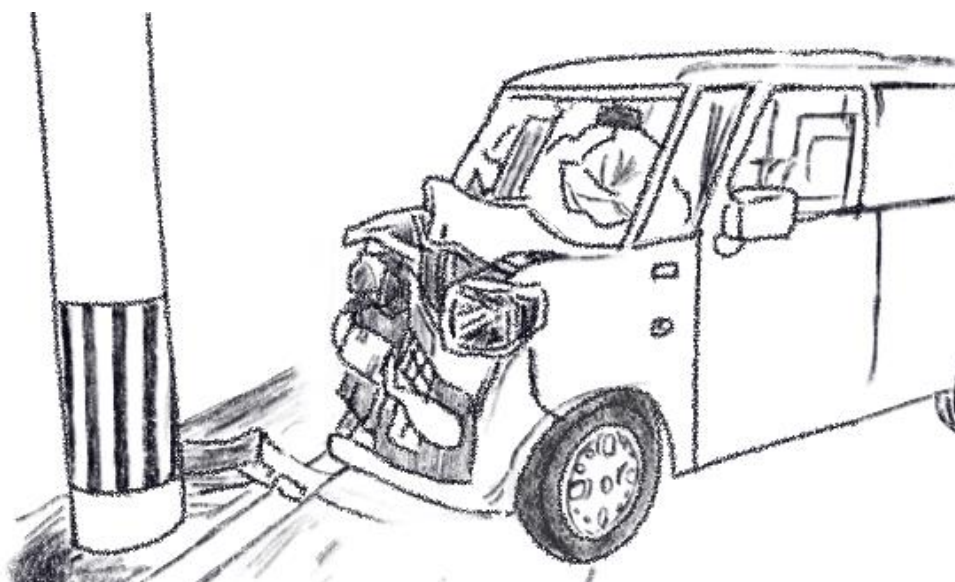
Injury Alert (傷害速報) 類似事例

チャイルドシート使用中の交通外傷による頸髄損傷 (No.105 チャイルドシート使用中の交通外傷による頸髄損傷の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：0歳 11か月 性別：女児 体重：9kg 身長：69cm
	家族構成	両親と児の3人家族
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		高位頸髄損傷、交通外傷
医療費		医療機関 A 入院費 10,506,220 円 医療機関 B 入院費 885,620 円 リハビリ入院 773,990 円 医療機関 C 145,380 円
原因対象	対象名称	チャイルドシート
	入手経路 使用状況	詳細不明。生後 6 か月頃からチャイルドシートを前向きにして乗車させていたとのことであった。
発生状況	発生場所	公道
	周囲の人 周囲の環境	母が運転する軽自動車の右後部座席に設置されたチャイルドシートに前向きに乗車していた。肩のハーネスが緩くなっていたが締め直していない状態であった。
	発生年月日	2021年 5月 X日 (月) 午後 8時 10分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	母が運転する車の右後部座席に前向きに設置されたチャイルドシートに座っていた。同車による単独事故として電柱に衝突した (図 1)。車の速度は不明で、ブレーキ痕はなかった。受傷後、母が確認した時には、児はシートに座位の状態でものみの前屈していた。肩ハーネスは肘関節付近までずれ落ちていた。その後、母が児をチャイルドシートから抱え上げて救急要請した。午後 8 時 29 分に救急隊が現着し、午後 8 時 30 分時点の初期波形は PEA (pulseless electrical activity) との判断であり、直ちに心肺蘇生を開始した。午後 8 時 31 分には心拍再開を確認した。バイスタンダーによる心肺蘇生は行われなかった。午後 8 時 33 分に車内収容した際は JCS (Japan Coma Scale) 300、瞳孔径 2mm/2mm、心拍数 91 回/分、呼吸数 17 回/分、血圧 91/47mmHg、SpO2 44% (大気下) であった。酸素投与および用手換気しながら搬送を開始した。

医療機関受診時
以降の治療経過
転帰

午後 9 時 06 分、医療機関 A に到着時、呼吸・循環は不安定で意識障害を認めていた。医療機関 A で気管挿管、また静脈路確保の上で急速輸液、アドレナリン、重炭酸ナトリウム、ドパミンなどの薬剤投与などの蘇生治療を行った後、高次医療機関 B に施設間搬送した。5 月 X+1 日午前 0 時 30 分頃に医療機関 B に到着後は集中治療管理を開始した。完全四肢麻痺・呼吸不全を認め、入院中に実施した MRI 検査により、頸髄損傷（C1-C2 レベル Frankel 分類 A または B）を認めた。同検査で両側無気肺と胸水貯留も認めた。入院 21 日目に気管切開を実施し、人工呼吸管理を継続した。入院 24 日目に一般病棟へ転棟し、入院 31 日目から経口摂取を開始した。入院 3 か月後、リハビリ目的で医療機関 C に転院した。受傷から約 6 か月後時点で、意識清明ではあるが、呼吸筋麻痺により自発呼吸・換気は不能である。後弓反張あり、四肢は弛緩し自発運動は時折みられるが合目的な運動は不能な状態である。後遺症の大幅な改善は難しいと予測されている。本児の座っていたチャイルドシートは前向きで、肩のハーネスが緩くなっていた状態であった。添付文書には「9kg 以上になるまでは後ろ向きのみで使用可能であり、前向きでは絶対に使用しないこと」と記載されている。本事例のシートの向きやハーネスの状態が、外傷の重症度と関連しているかどうかは不明である。



【図 1】 事故現場と電柱に衝突した自家用車の再現図。母は上肢骨折のみであった。チャイルドシートは右後部座席に前向きに設置されていた。